

元気なひと なにかま



みえサイエンスジュニア

☺中学生が「Ene-1GP」に挑戦

私たちは、8月4日(日)に鈴鹿サーキットで開催される「Ene-1GP(エネワングランプリ)」に出場する中学生チームです。

みえサイエンスネットワーク*が参加者を募集しているのを知り、応募しました。県内のさまざまな中学校から集まり、初めて出会った者同士ですが、車づくりへの関心を共通項として、力を合わせて取り組んでいます。

※未来の地域を担う人材を育成するために教育機関や企業などが連携し、鈴鹿工業高等専門学校が運営

☺最先端技術で車づくり

レースは、単三電池40本のエネルギーだけで国際レーシングコースを3周し、そのタイムを競うものです。先生方の指導の下、電気自動車を組み立てました。自動車と言えば金属加工と溶接を思い浮かべますが、ボーイング787で使われている炭素繊維強化プラスチックを使うことによって、私たち中学生でも、ハサミと接着剤で製作できました。最先端技術のすばらしさに驚かされました。

☺夢に向かって頑張ります

レースの目標は、完走です。1周5.8kmで高低差もあるコースを3周することは簡単ではありませんが、ベストを尽くします。

メンバーの多くは、将来の夢としてロボットクリエイターなど、ものづくりに関わる仕事に就きたいと思っています。今回経験したことを生かして、今までになかったものを創造し、世の中に送り出せるように頑張ります。

関え! モータースポーツの鈴鹿人

本田技研工業(株)鈴鹿製作所の従業員によるクラブレーシングチーム「Honda鈴鹿レーシングチーム」が今年も8耐に挑戦します。

既に50年以上の歴史がある伝統のチームで、鈴鹿8耐には1978年の第一回大会から参戦し続ける数少ない存在で、今も若い世代のクラブ員たちが先輩たちの意思を引き継いで活動を続けています。今年はライダーに安田毅史選手、北口浩二選手、そして入社したばかりの18歳、日浦大治朗選手の鈴鹿市在住の3人組ですから、鈴鹿市民の皆さんにぜひ応援していただきたいチームです。

ここ数年、メキメキと実力を付け、昨年は見事に5位完走!しかし、目標はもっと高い所にあります。チームの歴代最高位は4位。まだ先輩たちも成し遂げていない鈴鹿8耐の表彰台を今年こそつかむため、オール鈴鹿のレーシングチームは全力で真夏の8時間を駆け抜けます。



Honda鈴鹿レーシングチーム
(鈴鹿8耐参戦)

■語り手 辻野ヒロシ

(鈴鹿サーキット実況アナウンサー・鈴鹿モータースポーツ友の会副理事長)

広報すずか 2013年7月5日号

キーボード

朝の連続テレビ小説が面白いですね。廃線の危機にひんしている鉄道会社がある町を舞台に、内気だった主人公がけん引役となって、町おこしを行う。テンポがよくて、じーんとくる場面も織り交ぜられ、つつい見せてしまいます。

故郷を出て今は鈴鹿で暮らしている私。町おこして何だろう、どうしたら成功するんだろう?と、仕事半分興味半分町おこしの本を何冊か読んでいます。

だんだん分かってきたのは、外部の関心を引くだけでなく、地元の若い人たちが自分たちの町の魅力をあらためて発見できるのが、本当の町おこしであるらしいこと。一過性のブームに終わらず続けていくには、幅広い世代が関わって楽しめること。

朝のテレビを(録画で)見るたびに、故郷のことを思って身につまされたり、広報のあり方について考えを巡らしたりと、忙しい私なのでした。(保)



鈴鹿市携帯サイト
「元気モバイル」

■発行/鈴鹿市 〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号 ☎059-382-1100 (代表) ↑ <http://www.city.suzuka.lg.jp/>
 ■編集/企画財務部秘書広報課 ☎059-382-9036 ☎059-382-9040 ✉ hishokoho@city.suzuka.lg.jp
 ■印刷・制作/指定就労継続支援事業所 八野就労支援センター印刷係
 ☎059-375-4381 ☎059-340-8810



古紙配合率100%再生紙を使用しています。この冊子は資源ごみの「新聞」に分別してください。